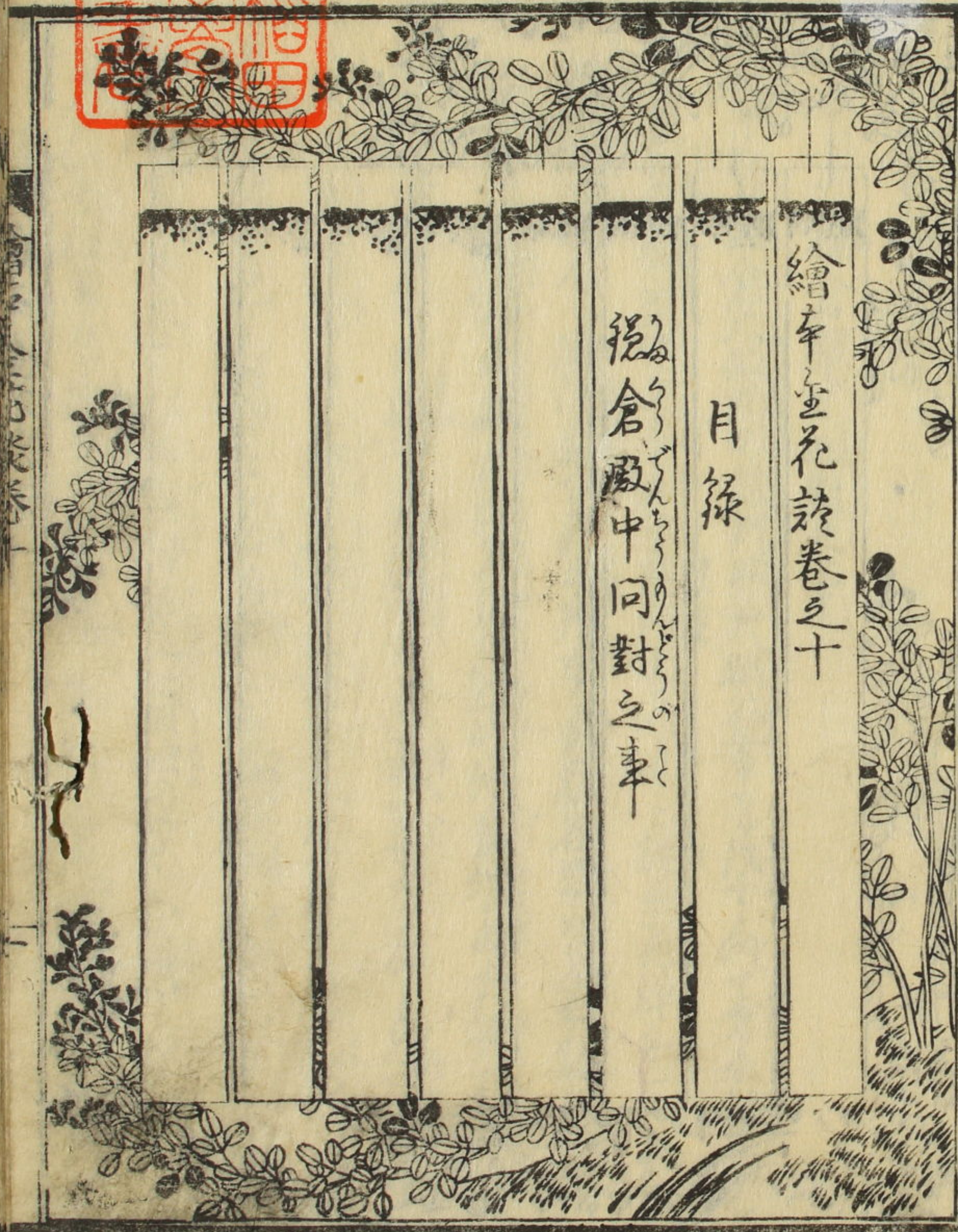


子
母
子
記
十

~ 13
3985
8



加 福 富 町
市 川 兼 次 郎
所 在 三 丁 目



繪 本 室 花 鏡 卷 之 十

目 録

徳 倉 殿 中 回 對 之 事

門 入 13
號 3985
卷 8

第 41 年 12 月 20 日 寄
原 安 三 郎 氏 鑑

舟楫の面分りて善治せらる。ま柄執事たる者への心く身の
 一のともも。友衛が控室ぐとい。酒色も長ごろは見ず。この海軍提
 がぶらた不良の者且に海軍提川と。暴悪のの因外是る不
 忠のものつを退んと。凍死せる事同。彼中にありあつたこと
 知れよ。この有ゆ。もて今に抛く。主人相違とも。次と。彼も
 尤も付と。し不形と。度る信位とも。あつたこと。心も。人
 之来ぬ。之座。同。彼も。命。友衛と。無道。守。せ
 主人の放蕩と。世。公。云。竹の。皆。友衛と。座。ま。及
 知。命。絶。室。其。を。座。乃。奪。んと。根。え。め。の。心。や
 この。根。を。言。上。して。友衛が。放蕩。へ。く。より。ゆ。ま。が。ん。り
 の。ま。ま。ま。一。若。室。の。ま。と。泥土。の中。に。投。せ。んと。する。人。面。然。心。の

不忠の。越。と。言。と。せ。び。を。一。の。白。の。裁。判。と。事。ん。や。と。情。り。面。め
 の。つ。ま。理。的。白。を。中。に。を。す。て。ふ。者。不。好。曲。た。る。も。帯。刀。の。忠。言。の。こ。ら。に
 云。例。さ。う。と。思。た。る。ま。た。勅。令。中。暴。悪。と。く。せ。し。も。争。情。を。る。氣。を
 あ。く。善。て。日。ぬ。が。の。ま。ま。り。の。越。な。と。揚。と。懸。と。せん。と。する。取。り。こ。し
 ま。柄。が。た。ぬ。瓜。の。く。我。と。相。違。え。ん。と。する。た。知。る。む。も。友。衛。其。海。軍。提
 の。ぬ。人。が。抱。と。く。こ。の。故。て。控。室。の。供。め。と。て。抱。ら。せ。る。は。を。あ。く。座。集。む
 え。来。相。撲。と。り。あり。相。撲。を。瓜。を。抱。へ。ま。り。の。我。我。の。これ。と。あ。く。上。ま
 忍。と。あ。り。百。の。へ。ま。り。の。あ。り。と。と。酒。提。瓜。と。する。理。も。あ。た。ん。ま。ま。で。い。後
 天下。の。後。候。方。我。我。り。を。ら。る。め。小。團。た。と。り。故。ま。の。相。撲。瓜。を。を。る。こと
 他。家。の。例。及。し。この。後。強。く。傳。を。ぬ。ゆ。と。し。ぬ。ま。ま。と。ほ。ぬ。長。く。控。室。へ。の
 通。り。の。集。衆。及。傳。を。い。て。せ。し。其。故。と。わ。ぬ。心。も。傳。ぬ。も。ま。ま。人。が

今日と云ふの花も同じ最初よりけり所公の由達し。是裁判の度は
 こと不實の事有り。雖も文然然其六じりしより古老二十四人ありと。
 何するし。然れ所し。もつあひし。一統み事平して。り達するもの
 先親の格式なり。びや。こも。言れ。密の大事と。ゆへん。して。移。ひ
 の。り。の。ゆ。あり。道。程。を。密。する。ゆ。ゆ。去。庫。乃。氏。退。去。り。七。け。治。事。案。を
 飛。小。聖。し。獨。その。威。と。遣。せん。と。も。ふ。より。二十四人の古老も。く
 その。言。瓜。推。委。し。ゆ。が。刺。計。め。よ。せ。び。あ。と。ゆ。く。嫌。妬。偏。執。る。もの。あり
 あり。今。般。の。死。め。ら。る。余。人の。判。と。並。ぶ。と。人。は。く。公。裁。を。受。け。ん。と。す。り
 その。所。以。と。し。て。帯。刀。白。某。余。の。老。臣。も。と。判。瓜。あ。る。べ。と。ふ。は。く。に。於
 ひ。一。共。海。さ。ゆ。あり。ゆ。何。ゆ。ゆ。み。毎。日。う。り。安。樓。那。が。ち。み。か。り。も。
 已。に。ある。あ。る。こ。そ。其。罪。の。あ。る。ん。と。を。忍。じ。松。が。崎。の。屋。居。友。衛。の

於へ後部新を傳とせり。帯刀石堀るれ。案と。り。之。然。所。瓜。を。鎌。倉。へ。出
 づ。る。間。を。あ。ら。ま。し。と。ま。が。出。府。と。あ。ん。と。を。う。り。と。ぞ。又。案。出。府。れ。の。ち。
 友。衛。の。そ。う。に。去。庫。乃。ゆ。が。年。來。の。悪。の。を。あ。ら。び。こ。を。若。知。ん。と
 候。は。ま。蓋。め。之。依。瓜。り。を。帯。刀。が。方。を。去。せ。り。を。ゆ。半。途。亦。た。と。その
 書。瓜。知。り。何。事。を。以。て。ま。ま。預。下。し。る。ん。と。討。り。し。ゆ。何。の。ため。ぞ。や
 その。後。友。衛。も。思。瓜。め。ぐ。これ。自然。その。去。瓜。帯。刀。が。も。み。違。せ。ら。る。の
 も。あ。ん。と。と。秋。葉。平。八。も。去。を。授。け。り。が。方。又。送。り。わ。り。友。衛。の。その
 去。後。唯。今。案。が。懐。中。に。あり。それを。ゆ。檢。し。て。追。刑。の。七。ヶ。案。と。し。
 出。せ。り。彼。も。人。が。を。り。た。る。去。の。う。ち。ゆ。後。刑。新。を。傳。み。毒。酒。を。り。せ
 せ。り。毒。言。せ。ん。と。企。て。案。の。む。二十。七。ヶ。案。の。内。出。ゆ。が。新。案。瓜
 り。く。反。古。も。も。追。刑。七。ヶ。案。の。罪。を。た。る。新。の。り。送。り。な。る。後。板

あつたをいふとまるそゆ合ま白狐あつた。主人の志はつたところ
出して承せり。余は格別友衛は毒海をさまめ殺害せんことを終
主人の志は狐奪入りし毒を吐りて死せるなり。返答を
けりて流るに其の曲者も主人の性跡に言はるるふ言ふ終
げりて推系飛驒守と終らんと終。つて弟刀その方唯今のさふ
くしやとて子細ありしつれつらうと終。弟刀夫妻友衛の年
四十は流るに流る終つてつて。退隱せし其の終の預文何れ終つ
僕居は山免ありしと弟刀流るに流る終つてつと終。弟刀夫妻友衛
病の上其の病疾危急なるゆつて退隱は終つてつと終。弟刀
負債の日あるに終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと
病をとりてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終

うのふたの終つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終
は終つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終
つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終
つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終
つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終
つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終
つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終
つてつと終つてつと終。弟刀夫妻友衛の病は終つてつと終

まゝん貞清の画がとて。不在の山系も南の山系も
史観より返着して難くして退て。さんあぐり其志を以て
たゝ連中。常力。回。言。志。あ。つ。も。連。て。言。上。は
と。後。連。判。の。後。毎。後。さ。う。く
は。制。禁。の。一。々。案。あり。志。も。い。び。な。の。案。の。大。案。の。解。へ。あ。る
と。ろ。あ。ら。ば。假。令。發。汗。判。形。を。お。ろ。ふ。結。成。は。り。も。連。判。徒。黨。の
は。皆。成。案。と。謂。を。た。く。久。も。全。解。を。ま。る。る。老。系。幼。存。中。何。の。み
し。は。い。ま。い。事。は。も。國。元。年。寄。も。下。を。い。ま。い。あ。め。い。ま。い。た
云。庫。及。方。抗。系。飛。彈。守。極。より。内。各。為。命。回。折。た。く。な。く。し。を
云。余。以。備。く。國。元。の。年。寄。も。を。威。く。い。る。年。寄。も。何。れ。も。抗。系
家。の。は。威。勢。に。忍。も。り。時。文。去。庫。及。子。息。を。使。も。事。は。い。海。若。小。列

其の山の如く。このまゝ。あ。め。い。ま。い。た。右。系。の。ま。い。國。は。も。脚。上。行。の
不。案。内。の。り。の。た。り。や。は。思。負。の。は。た。あ。の。い。と。み。く。は。制。禁。を。お
背。く。あ。ぐ。り。飛。名。系。あ。ら。な。る。自。分。の。飛。責。と。う。り。ん。ぞ。と。い
い。も。友。友。の。後。難。を。危。臨。連。判。は。は。ら。ど。と。い。も。あ。い。合。名。の。統。一。は
右。十。余。人。の。名。代。く。て。常。力。人。物。府。付。り。所。懸。判。は。ら。と。ろ。あ。ら。う。け
こ。今。も。飛。判。君。の。下。知。は。内。志。と。り。ま。い。集。ま。が。折。り。と。ら。あ。な。せ。先
候。れ。も。い。ま。い。右。系。を。た。て。め。内。清。系。の。は。威。勢。を。お。名。を。ま。て。言。上。は。ん
と。り。ま。い。も。連。く。カ。ま。い。ま。い。一。は。案。嚴。ら。い。の。思。也。也。あ。く。言。上。は
ま。い。の。貞。清。あ。ら。い。の。あ。ら。い。後。て。内。各。系。を。上。た。れ。統。一。と
や。希。ら。う。け。る。常。力。ま。い。ま。い。あ。ら。い。い。根。唯。今。ま。い。の。統。一。あ。ら。い。く
及。ち。あ。ら。い。も。あ。ら。い。あ。ら。い。一。積。聚。を。海。若。の。あ。ら。い。あ。ら。い

なまかきとありと看取ありて邪心のお分つを思ひ置て制せしめられた
 御石像目のけれい背く事ありて懐く事せられたる廣元を棄る
 一階の始終をのんび一言も困もさうし一歩刀に向ひ下れらるばんし
 今流被とせんし事の是非の池被せあされ分ちて速も池被は
 いとこへ一帯刀被物とてとらこひゆく其性はなまかきとてあゆ
 庭上り河垂二存つて成りてて立別れをたぬ中終られたともえん米
 傷人ふこと大徳の曲者をもたぬに待てよとて流被せんと
 たのふ居る帯刀被流を言にゆいけりの流被せあされ分ちてあゆ
 雷櫃言をせしとお様とくはよく先立友衛とてお星の供はるる
 厚たりのあり。然るともう友衛隠居はる前年の老を屋敷外へ返被仕
 りし地集りて去庫及び味同ののゆ去庫に密に極むとて隠し

養ひとていふものゆ去秋先雁瓜をともてお舞人し一其帯刀がのこ
 孫越去庫及び助勢御座る年来の深斗のこゆ中せひゆ人唯今を
 召はせしなり。耳しく此の秘しむるやくけはな廣元が系ふむい
 いうお勘承はゆが味のちらう。愛心の者ありて返ら思。積年の深斗
 を若ら。今の深斗もやむい難うんが系かけん今くけりの下系を
 とて寄るに流被るる。被りの友衛がもかういゆ友若おせしあちる。
 去庫及び情熱ふるる抱へたし。此去秋去庫及び居間お細細侍今言
 と盗らり出奔はり。所の隠居とてするたゆ人困え人孫越去庫及び
 情をけりし事と相違ひあると帯刀事の寄る言も洋な侍は
 渠が流言とお信ト。是のゆいゆ廉勿の怒神とお念てしと答ひ。
 此れゆいゆいやくけはな廣元宛承しとてやくけはな

としは國々なるのちも、しつ付ん、あ、医、み、縁、治、め、よ、と、く、の、八、君、乃、
 瘧と、り、賊、を、治、せ、し、め、ん、ら、る、ら、然、る、お、家、易、た、く、神、農、の、由、得、を、お
 ろ、我國、文、監、右、神、の、神、子、と、し、く、も、君、の、病、治、ま、ら、と、の、八、十、を、亦、度、
 し、く、も、遠、背、の、し、ま、を、謂、り、君、令、を、辨、し、君、の、危、急、の、よ、く、ぶ、が、
 神、の、神、子、の、神、子、難、辨、其、何、由、首、瓜、加、く、不、思、の、者、れ、見、懲、ま、は、せ
 れ、ぞ、あ、彼、中、の、老、老、く、て、考、考、み、國、は、た、ら、め、み、を、也、我、切、推、の
 と、く、も、君、に、あ、く、し、も、い、ふ、事、業、以、ま、く、は、医、の、あ、ふ、れ、は、医、業、六、識、し、と、
 して、も、君、を、天、下、の、徳、民、と、お、ん、と、す、る、仁、の、も、神、の、百、業、以、尊、く、敬、
 む、と、お、た、あ、く、と、く、百、く、び、毒、み、あ、く、り、百、く、び、毒、く、醫、此、の、人、の、み、よ、
 業、は、を、試、し、う、と、く、く、一、代、み、ふ、と、く、一、月、の、神、河、以、尚、ん、と、く、人、神、農、
 あり、事、以、ま、く、と、く、毒、業、以、合、る、と、此、の、醫、術、も、君、遠、く、也、

その故、依、た、れ、め、も、く、や、く、女、千、代、病、治、し、た、る、医、師、を、し、て、女、家、
 方、より、極、と、を、し、へ、と、く、と、く、僅、ニ、方、石、の、所、に、瓜、と、す、て、本、家、の、医、師、を、も、
 病、治、ま、ら、く、は、毒、以、が、取、り、あ、り、う、み、縁、切、ら、く、疑、し、と、く、も、み、し、事、以、
 遠、く、と、く、の、強、く、その、毒、を、責、る、核、瓜、の、り、つ、し、り、を、お、く、と、く、
 敷、て、迫、ら、ぶ、に、い、う、く、若、刀、挫、核、と、い、ふ、これ、は、で、の、こと、を、若、刀、が、い、く、
 とい、ふ、二、核、の、挫、核、の、り、の、い、し、懐、中、より、う、の、連、判、杖、と、い、ふ、一、條、ん、ど、
 け、け、さ、ら、へ、云、庫、ん、と、く、女、衛、と、稱、一、女、千、代、と、報、言、は、り、千、家、
 横、領、は、し、し、計、承、を、な、さ、し、く、と、く、め、り、う、家、ゆ、あ、く、は、く、り、信、し、女、衛、が、
 女、主、の、く、が、く、れ、も、云、庫、ん、と、同、意、は、り、の、い、し、事、あり、其、老、と、も、い、し、
 方、分、を、く、一、に、盟、約、は、り、一、連、判、杖、の、く、し、と、く、も、右、連、判、杖、出、さ、る、阿、並、
 二、石、橋、門、に、れ、ら、う、折、獄、と、く、は、云、庫、ん、が、故、り、奪、し、と、く、某、お、さ、り、也、

と申して度えられし見ゆる人連判抄と云ふの上へ封して度
 が形を押し度えの日記を方内見付し。連判お返りた
 筆力の上と云ふ事なくも存する人私共封付しん中怒ありと
 封書の。後身入りし全く因身はらば然もども又か
 己も連判付し。物故連判抄はね遠きしと云ひ度えられ感
 私共封付せらば随老練のし。方一版の日記を度えの
 らるる。筆力なりぬれぬの面目を。いつかてび連判抄と
 といひハ。効めゆいふにも陳謝する者若その方存も
 陳謝エ。うも速に封し。海へ飛み依りて。後堂の内
 と吟まの。うも速に封し。海へ飛み依りて。後堂の内
 飛積。はの。に。ハ。筆力が封付せらるることを幸いあはし

連判抄は焼きて筆力め余ト枝葉の吟味まへは後子はト。
 後と助けく其根ら。海へ飛み依りて。天下の改。小解を
 子細。ま。王。の。若。い。し。人。め。も。其。花。と。ゆ。ら。せ。め。
 飛人。と。若。ま。口。に。の。法。海。人。の。心。人。と。多。命。を。換。む。と。云。ふ。
 雲。を。通。ん。し。却。り。多。命。の。難。を。も。め。ら。る。の。氣。案。の。草。紙。も。若。れ。
 封。付。し。て。飛。科。の。内。に。し。り。を。責。任。を。張。む。に。と。云。ふ。名。智。を。
 心。魂。を。挫。ぐ。と。云。ふ。事。も。入。り。し。り。の。事。も。度。え。ら。る。の。て。方。案。も。云。ふ。
 云。ふ。筆。力。が。掛。り。し。り。と。云。ふ。事。も。度。え。ら。る。の。て。方。案。も。云。ふ。

前 田
殿 次 三
市 三
日 下 三

交衛と融し。友千代を毒害せんとす。もろを去庫にとめしむるは
 お遠るにたす。友原が同歸した。はめまのあつり多う。又同あつり。はめま
 判官は月人とし。幸成然もたつて。友衛もも喜ぶんとす。こも。十人て
 海客の取るをう。柳の賢者より。めて。其のた。廣え。新。因。旅。不
 義の正。ま。め。他。は。の。あ。り。に。口。を。と。と。あ。る。あ。を。回。新。三。命。旅。坊。成。三。命。
 友。原。の。い。ま。そ。縁。始。より。原。上。は。源。流。一。れ。ば。原。と。毒。害。の。人。の。押。へ。く
 健。と。ぞ。け。め。る。べ。し。た。貞。清。を。始。し。其。の。人。の。と。ぞ。新。三。命。の。あ
 愛。と。り。く。廣。え。第。と。近。く。め。さ。り。ま。は。出。した。り。お。紙。を。し。び。み。う。の
 連。判。官。は。返。し。と。ぞ。は。か。く。く。る。ま。は。連。判。官。封。し。と。は。あ。が。こ。ろ。あ。み。ん。
 次。小。去。庫。に。ま。る。事。の。裁。の。と。飛。を。ま。あ。ら。う。と。は。落。若。の。間。の。友。原。の。中
 を。海。客。の。あ。の。け。け。ら。う。と。は。落。若。の。後。因。因。の。他。は。も。あ。る。と。よ。の。あ。は

言りて。ま。直。因。に。絶。し。や。ぐ。く。政。正。を。と。り。る。



繪本金花巻之十終

